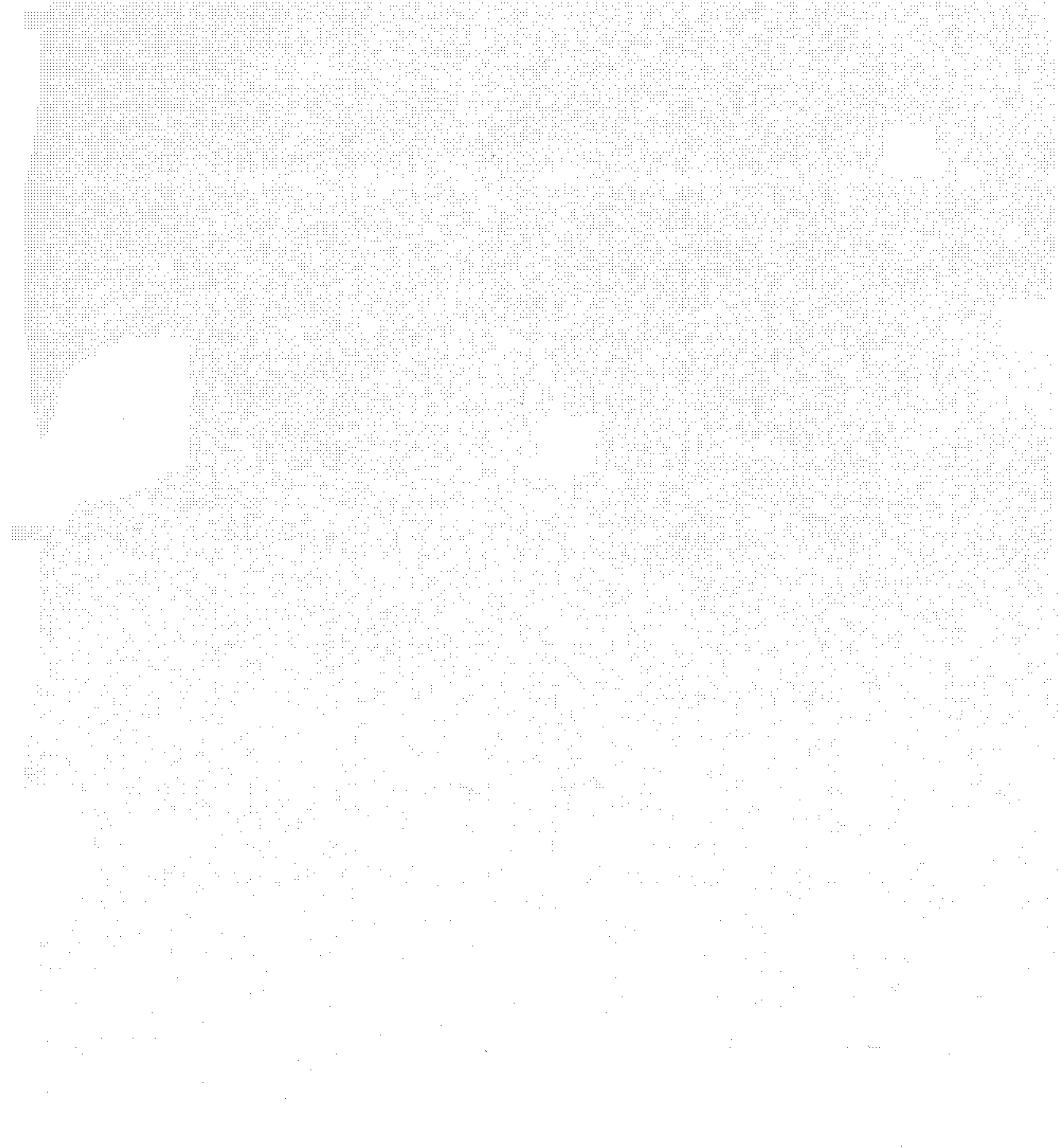


ヴァーダー・オルコット・ビックタフ・オード

Vahdah Olcott Bickford



オルコット夫人について

オルコット・ピツクフォードは今日の世界に於ける最優れたギタリストの一人であり、且唯一の閨秀ギタリストである。彼女は西班牙生れのマヌエル・イ・フェレルを師としてギターを學んだ。彼女の進境は目に見えて著しく、幾何もなくソロイストとしてステージに上るに到つた。近年に至りプレクタラム樂器研究家として知名なマイロン・ピツクフォード氏に嫁し、意義ある藝術的生活に日を送つて居る。作曲編曲は可成に多いが、優れたものとしては二三を擧げるに過ぎない。古のブラッテン夫人と今日のオルコット夫人及ブロンデイ嬢は女流ギタリストとしての三幅對であらう。

進歩に就いて

初學者が毎日多大なる進歩を希望してもそれは不可能な事だと云はなければ成らない。之は私が云ふ迄も無い事である。然し若し其人が善良なそして規則正しい練習生であるならば一月の間には其進歩を自ら知る事が出来るに違ひない。

新に一つの樂器の練習を初めた處で一日の中に何程の進歩を爲したかを具體的にそして正確に計る事は出来るもので無い。たとへ一週間の期間を以てしても非常に大なる進歩を見る事は到底不可能である。然し日は重つて週となり、週は重つて月と成り、月は遂に年に變る。そして年は確に驚くべき進歩を示すであらう。若しも其練習者が毎日前進して居たならば。

初學者も次の如き方法を以て自分の進歩を知る事が出来る。それは練習の數週間、或は數月間の後、曾て最初練習を試みた部分を繰返して試みるのである。恁う

する時は其當時非常に困難に感じたもの、又は全然弾き得ないと考へたものが今は甚だ容易に演奏し得る事を知るであらう。時としては恰アルファベットを口吟む位に容易に弾き得るのを寧ろ不思議に感ずる事さへあらうと思ふ。

多くの若い練習生は成功に非常な捷徑がある様に心得て居る爲に練習の數月後に到つて尙教師と競争が出来ない時は焦慮の結果不耐にも中止する事が往々見られる。又彼等は獨奏家が非常に難しいパッセージを比較的容易に弾くのを知り、或程度の難曲を譜を見ただけで直ちに弾くの見、且其演奏を聽いて非常な愉快を感じ、自分も亦此様な技倆の所有者となる事を希望するが、而も其獨奏家が今日の「容易」を見る迄にどれ程の忍耐的練習を、どの位の時間に互つて行つたかに就いては餘り考慮を與へない様である。

彼等は單に此「容易」の程度迄最速に達しやうと望む。前述の捷徑を通らうとする。然し音樂上の成功には例へ其練習生が異常の天才であつても決して捷徑は無

い。天才はトーマス・エディソンが云つた様にインスピレーションよりもパースピレーション（發汗）によつて出來上るものである。音樂に對しての眞に偉大な人は其音樂の爲に自らを犠牲とする人である。彼等は曾て自分達と同じ位の年齢の小兒が外で遊んで居る時に自分は樂器を弄んで時を費した。長じては友人がピクニックやマチネーや其他の娛樂場所へ誘ふ時に家に居て練習に時間を費したのである。私は音樂家が自分の音樂の爲になした犠牲に就いて後悔するのを見た事が無い。そして之と反對に音樂を修業する機會、それは再び戻つて來ない好機會を失つて後悔する多くの人を知つて居る。

練習生は毎週小進歩を作ればそれでよい。何となれば一年の終に於てはそれが非常に大なる成功をもたらずに違ひないからである。結局進歩は「如何に早く」の問題よりも「如何に確に」の方が肝要であると云はなければ成らない。勿論迅速な進歩は稱讚に價するには違ひないが音樂練習の爲に或限りある時間しかもたない人々には

之は望むべからざる事である。然し若し適當の方法をもつてすれば一生慰樂となり利益となるべき或物を彼等は獲得し得るであらう。それは恐らくは財政上の利益で無しにそれよりも一層偉大なる利益であるに相違ない。即ち其一は觀賞の能力であつて今一つは批判の能力である。そして最後に音樂の生徒としての眞の完成が附加へられる。此完成は元より機會、運命等にも依るが大部分は恰も知識が勉勵の線に沿ふて延びて行く様に、自分の養育によつて出來上るものである。

二人以上の練習生が集合して行ふ練習は彼等の進歩を非常に速に且大ならしめる。此事は私が自分の生徒に就いて屢々感じた處である。實際集合して練習する人は同時間只獨りで練習する人よりも通常遙に大なる進歩を見るものである。例へば日多くの時間を費すにしても單獨練習は集合練習の力強さに到底比較され得ない。

要するに毎日或時間を練習の爲に費すものとすれば「如何に多く」とか「如何に長く」とか云ふ事は問題で無く、「如何なる方法を以て」と云ふ事が主要の問題である。

ギターの美と力

勿論悪氣があつての事では無いが熱心を通り越して狂的に成つたギターの偏愛家が此樂器の能力と魅力に就いて無暗に騒ぎ立てる事はギター音樂の發達を却つて阻害するものである。殊にギターの能力に就いて僅の知識ももつて居ない爲に單に平凡な樂器と思つて居るヴァイオリニスト、ピアニストに向つて此狂的の說教がなされる時に特に其害は大きいのである。彼等に對してギターの眞價を悟らしめる方法として之は正に不適當であると云はなければ成らない。

其總ての優越點を以てしてもギターの能力が無限に大きいものである等とは云ひ得ない。然るにギターを偏愛する者は此樂器の能力は限りなきものゝ如くに考へ、すべての樂器を排して只管ギターのみを謳歌する爲に、あらゆる樂器の能力に限界のある事を知つて居る音樂家は之に對して反感を抱く事と成るのである。

すべての人事には限界が定められて居る。従つて人に依つて造られた樂器にも其能力に各々限界が附せられて居るのは勿論である。若し吾人が能力無限の樂器に依つて奏せられたる音樂を聽く事があるとすればそれは神の音樂で決して人の造つた樂器から出た音樂では無い。

ピアノは今日すべての樂器中最廣く用ひられて居るが其能力はそれが有鍵樂器である事に依つて著しく縮少されて居る。此樂器はギターや擦絃樂器のもつて居るヴァイブラート（音を顫動せしむる事）ポルタメント（音を滑動せしむる事）をもつて居ない。吾人はピアノの力と其重要さをよく認識して居るが大ピアニストですらピアノ音樂で埋められた音樂會は餘りに單調であると云つて居る。其はピアノの效果の上に於て變化が少いからである。オルガンは音調に豊麗と壯嚴とを兼ね備へて居るが然しポルタメントを出す事は出来ない。ヴァイオリン及其系統の樂器（擦絃樂器）は非常に美しいポルタメント・ヴァイブラート及ハーモニックを容易に出し得

るが而も結局旋律楽器で旋律と同時に自ら其伴奏を奏する事は不可能である。總ての管楽器も亦云ふ迄もなく旋律楽器で和音楽器ではない。ハープは屢々楽器中の女王と稱せられるが然し此楽器を以つてポルタメントを出すことは出来ない。そして勿論和音楽器ではあるが其非常に美しい効果を以つてしても或限られた曲以外に進展する事は出来ない。マンドリンは單に旋律楽器として以外に其特色とする全和音様式（無伴奏形式）に於て單奏せられるが而も其四絃の上に於て出し得る伴奏は勿論狭い範囲内のものでギターのそれの如く廣くない。

斯くして吾人はすべての楽器の能力上の限界を説いたが更に問題と成つて居るギターに於ても音量の乏しい事と音を保持する上に缺點のある事とを知らなければ成らない。勿論トレモロを用ひて音の保持上の効果を擧げる事が出来るが而も之に依つて其範圍を全く脱する事は出来ないのである。

然し今日眞の和音楽器と稱し得るものは僅に四つしかない。即ちオルガン、ピアノ、ハープとそしてギターである。而も此内ギターのみが旋律と伴奏とを奏で得る上ヴァイオリン、ポルタメント、ハーモニックの効果をも有して居るのである。此小さい六絃の楽器は音量の不足と云ふ缺點はあるにしてもそれは其音調の美と効果上の變化の大なる事を以て優に補はれる。斯くしてギターの愛好者は此親しみ易く且魅力に富める楽器を愛する事に大なる満足を感じるのである。

ギターは優越點を數多くもつて居る。持運びの自由と云ふ事も勿論其一つである。ピアノが屢々劣等なピアノ若しくは調子の狂つたピアノに惱まされるに反しギタリストは常に自分の楽器を身體の動く儘に持ち廻る事が出来る。

ギターをマンドリン、ヴァイオリン、フリユートの伴奏に用ひ若しくは優しい小唄や感情的な歌の伴奏として用ふる時は全く比類の無い美しさがあらはれる。此伴奏楽器としての光輝と魅力とは偉大なもので此方面に於てのギターの力はあらゆる人々に認識されて居るが然し何人もギターの最大なる價値は獨奏楽器としての中に

存するものである事を知らなければならぬ。

ギターは最親しみ多い楽器である。何人も憂愁に閉され、寂寥に捕はれた時ギターは最同情に富んだ慰藉者に見える。ギターを一度手にした者は之を全く熱愛する。そして此楽器を聞く機会があれば彼は決してそれを聞き逃さぬ様に成る。之は此楽器の偉大なる魅力を裏書するものではあるまいか。

人々は此楽器に深い興味を覺えると同時に其藝術と其奏者とに異常の興味を覺えるに違ひない。彼等は常にギタリストを尋ねる。そして偶々ギタリストに遭遇した時はギターの美しさ、其藝術及其奏者に就いて其ギタリストと數時間の談話をなして尙倦まないであらう。

吾人は曾て或人が「一度ギタリストと成つたものは永久にギタリストである。」と云つた言葉を記して此稿の筆を擱く。

ギター伴奏譜に就いて

ギターの伴奏譜は其數幾百千なるかを知らない。只甚だ遺憾にも今日吾々が目にし、耳にする伴奏譜は何れも一定のコードを一定の拍節で掻きなす底のもので、人々は此等の伴奏を聽いてギターの伴奏とは總て斯くの如き單調なものであると考へて居るやうに思はれる。其故に若し此人々が偶々ピアノに於て聽くが如き多少なりとも藝術的に價値ある伴奏をギターに依つて聽く事があれば甚だ驚異の感に打たれるのも無理はない。

然しギタリストはピアニストと等しく歌謡なり他の楽器なりに對して興味ある伴奏を奏で、は成らぬと云ふ理由は毫もない。何となればギターは充分立派な、そして複雑した伴奏を試みることが出来るのみならず、オブリガート楽器としても亦非常に優れた効果を擧げ得られるからである。

勿論吾々は斯う云ふ事を考へなければ成らない。それはギターを以つて立派な伴奏を行ふ事は長い間眞摯に此樂器を研究し、又それを獨奏樂器として探究した人々に依つてのみ可能であると云ふ事を。事實吾々はギターの伴奏のみを試みて居る人が會て一度として優れた伴奏を奏するのを聴いたことがない。之は取りも直さず彼等がギター獨奏の研究を怠つて居る結果である。世に伴奏者として知られて居るピアニストは其樂器其藝術を恰も自分はソロイストに成らうとするかの如く眞面目に研究し且大抵は多くの立派な獨奏曲を奏し得るのを常とする。之に反してギターの伴奏者の大部分は中庸以下の獨奏曲すら満足に弾き得ない。而して此「弾き得ない」と云ふ事はギター伴奏者の研究が不眞面目である證據で「弾き得ない」のではなく實は「弾かない」のである。

現今の如く凡庸な若しくはより劣つたギター伴奏者しか有たない時代にあつては伴奏樂器としてのギターの美點を正確に知る事は無論不可能であり又ピアノ伴奏と同様に價值あるギターの伴奏を期待する事は到底出來得ないのである。茲に於て吾々はギターの大家であるソロイストが模範的な伴奏を自ら演奏し、且練習者に對して之を教授されむ事を望まなければならぬ。

只茲に一つ厄介な事は現在吾々が手にとり得る伴奏譜の多くは例の月並な無價値なものでピアノの伴奏譜に比較する様な善いものは極めて少い事である。(勿論ピアノの伴奏譜にも下らないものがあるがそれは寧ろ例外である)之故に完全な、美しい伴奏を爲さうと望むギタリストはどうしても自ら立派な伴奏をコムボーズするなりアレンジするなりしなければ成らない。何となれば前述の如く極少數を除いては既に出版されたものゝなかゝら優れた伴奏譜を見出さうとする事は殆んど不可能事に屬するからである。

然し曲譜の改善の如きは今として寧ろ第二の問題である。當面の一大事業はギタリストが自ら大いに研究し練習して、完全な而して複雑な伴奏を弾き得る技能を作

る事である。

公衆が要求するものは何時たりとも出版する事を躊躇しない出版業者が立派なギター伴奏譜を出版しないと云ふ事は出版しても賣行の不充分である事を證明し、又眞個に完全な伴奏譜の賣行の悪いと云ふことは、斯かる伴奏譜を巧みに彈奏し得るギタリストの少い事を表示するものではあるまいか。故にギタリストの技倆が一般に進歩して好伴奏譜の要求が生れて來れば出版業者は争つて之を吾々に與へる様になるに相違ない。

前に現今出版されて居る下らない伴奏譜の中にも「例外」のある事を述べたが茲に其最大な一つを紹介しておきたい。若現今のギター伴奏譜に満足する事が出來ず、更に高尚なものを研究したいと望む人があれば、吾々は西班牙の大ギタリスト、フエレールの好曲集を其人々にお勧めする。如何なるギタリストも此近世大家の好曲集を是非座右に具へる必要がある程此曲集は數多くの美事な獨奏曲を集めて

居るのである。のみならず之等の獨奏曲、二部曲と並んでギター伴奏譜の數多くの歌謠が見られる。此伴奏こそ伴奏譜として最價值あるもので未だ其比を他に見出す事が出來ない。若し練習者が此伴奏譜に一瞥を與へたならば今迄の所謂伴奏とは全然其趣きを異にし居るのに氣が付くであらう。

何はともあれ目下の急務はギタリストが自ら努力する事である。彼等は如何なる障害を排しても己の技能を發達させる事に力を致さなければならぬ。そして苟くもギターを伴奏する者は現今數多く見られる月並の伴奏譜を以つて満足しないだけの覺悟を必要とする。若し目下の状態が永續してギターの伴奏が世人から漸次疎んぜられる事があればそれは現在のすべてのギタリストの共通の罪である事を忘れてはならない。(本稿に記されたフエレールはマヌエル・イ・フエレールである)

ギタリストと比較に依つて生ずる能力

ギターの研究家で此樂器の眞に美事な演奏を聞いた事の無い人達が世間に幾何あるか殆んど數へる事も出来ない。と憊う云つたらヴァイオリニスト、ピアニスト、ヴォカリストは或はそれを信ずる事が出来ないかも知れない。然し米國中に如何に多數の名ピアニスト、名ヴァイオリニスト、名ヴォカリストと如何に少數の名ギタリストが居るかと言ふ事を考へたならば、小都會—否大都會にでも—居住するギタリストで、自分自身か若しくは他の素人の演奏以外にギター獨奏を耳にした事の無い人達の數が決して尠少でない事を容易に認め得るであらうと思ふ。

此事はギター練習生に取つて勿論大なるハンディキャップである。たとへギターの美事な演奏を聞く事に依つて直接感得する知識其物を度外視したにしても。何と成れば大ギタリストの演奏を聞く事に依つて生ずるインスピレーションは生徒の向

上心を刺戟する上に於て一大要素と成るものであるから。

練習生の第二のハンディキャップは他人の或は自身の演奏を正確に批評する能力を得られない事である。批判の能力は十中九迄比較の結果に負ふものである事を思へば之は直ちに諒解が出来る。

私達は眞のギター演奏と云ふものと僅に夢想だけして居る憐れむべき人達を多く知つて居る。例へば「スパニッシュ、ファンダンゴ」をギター藝術の最上なものと思ひ込んで居る人達がある。勿論此人達は此曲を演奏する輩を好ギタリストと判定して居る。ギター、ギタリストの可能性に就いて如上の概念を抱いて居る人が偶々「スパニッシュ、ファンダンゴ」より稍複雑な曲を弾く人に出會つた時には此人を前述の所謂好ギタリストに對照してヴァルトウオーゾ級(藝術家として最優れたもの)に編入して仕舞ふのに不思議は無い。然し眞に優れたギター藝術、ギター演奏の標準から見れば彼等はギタリストとして最低の階級に屬すべきものである。而も若し

其ギタリストが自誇心の強烈な、そして容易に動かされ易い頭腦の所有者であつたならば彼は忽ち自ら最高の演奏家なりと信じて仕舞ふに違ひない。然し例へギターの價値ある演奏を聞く機會がないとしても生徒が前掲の低級なギタリストで終るか否かは別問題である。即ち普通の教師に就いて修養する事に満足せず、又低級な輩の安價な賞讃に動かされる事も無く、自身の能力を過信する事もない練習生が茲に見出される。そして恁う云ふ練習生こそ名ギタリストの演奏を聞く事に依つて自身の技能を漸次に磨いて行き得る人達である。

有名な音楽家の演奏を多く聞けば聞く程、自身の技能及他人の技能を批判する能力が出來上つて行く。そして異つた演奏者に就いて其音調を、技巧を、而して態度を比較する事が出來、それから自分自身の演奏に對して最注意深く判断を下す事が出來る様に成る。

音樂上に無教育な人達及ギターに關して何の知識も有たない人達の賞讃は演奏者に取つて少しの價値も無いものである。之に反し音樂上の知識の充分な人、若しくは其人自身音楽家である人、或は音樂を數多く聞いて居る人、又は多くの音楽家の演奏に就いて比較を試みる機會を多くもつた人達の賞讃に依つてこそ自分が完全な技能の階段を一步一步登りつゝある事を知る事が出來るのである。

研究者は出來得るだけ多くのギター演奏を聞かなければ成らない。そしてそれから學ぶ所がなくては成らない。例へ甚だ稀にしか其機會が無かつたにせよ其演奏から重要ないろ／＼の點を學ばなければ成らない。

音調の良否や樂器其物の善惡を批判するに際しても同一の事が云へる。經驗と比較とは人に正確な批判の能力を授けるものである。世間には私と同じ様な經驗をもつて居る人があるに違ひない。私は極幼少の時二十五弗のギターを初めて手にして之が最上のギターであると信じ、決して他を顧みなかつた。然し後幾何もなく眞に美しい音調のギターを聞くに及んで私の曩きの考へは根底から破壊されて仕舞つ

た。そして子供ながらも立派なギター演奏會場に現れる事が出来たならば死んでも遺憾ないと考へる様に成つた。

他の何事に對しても重要なが如く、音樂上に於ても最美しく最價値ある資格として認められる鑑識の能力は全く比較によつて發達するものである。或人をして次の言葉を發せしめたのも比較であつた。「人に數多く接すれば接する程、私は自分の犬に對して親しみを持つ様に成る」と。勿論此時彼は不幸な境遇に居たか、非常に厭世的に傾いて居た事は確であるが而も此言の中に或眞理が發見される。

ギタリストは此樂器の演奏を聞き得る機會を決して逃しては成らない。此事は單に演奏の上から重要なばかりで無く、ギター藝術研究の上から見て大に重要な事である。すべての音樂を出来るだけ研究しなければ成らない。そして種々の作曲、編曲、及作曲家其者の價値を眞に批判し得る様に自らを作り上げなければ成らない。同時に教授者は教則本の良否に就いて慎重に研究する事を要する。

二つ以上のものに就いて其孰れが優れて居るかを知る爲には比較法を除いて外に方法は無い。比較を多く試みる者程鑑識の力は優れて來る。そして自らの鑑識の力にこそ何人も最信頼する事が出来るのである。

貴下はスパニッシン・ファンダンゴを 弾奏せらるゝや？

此の質問は教師、素人、獨奏家の差別なく常に發せられます。思慮ある眞面目な樂生ならば斯かる駄曲を弾いて見やうとは思ひますまい。夫れ故に私は今ギターの初學者に向つて彼等が此のギター古典曲(?)を知るに至る迄に表題の如き質問を受けた時には何故此の曲を己のレパトリーの中に加へる事が不名譽であるか充分な説明を質問者に與へ得らるゝ様少しく此の非音樂的作物に就いて申して見たいと思ひます。

先づ第一にスパニッシンと稱せられても實は西班牙の曲ではありません。

第二にオハイオ州ヤングスタウンの非ローマンテイックな場所で作曲されました。

第三に誤つて『西班牙風の調律にて』と記されました。

第四に全然西班牙風の調律でありません。西班牙では短ホ調に調律されます。

第五に曲でもなければ旋律でもありません。只アルペジオの形式によるコードの連続したもので音譜を知らぬ者でも一時間後にはヴァリエーション共全曲を奏し得られる程簡易なものです。

第六に此の曲が評判に成つたのは練習を要さぬ程平易なるが爲で、そして之と對比せられるものは有名はピアノ古典曲の“Granny, Does Your Doggie Bite”と“Peter, Pumpkin Eater”の二曲であります。

斯くして此の駄曲は他の樂器の奏者にギターとは低級な音樂より奏する事が出来るものであるとの感を抱かせギターに多大の障害を與へました。ファンダンゴは音樂として不完全なる形式を備へ只喧騒になり響くのみで音樂家の耳には何等の感動をも與へません。従つて他樂器の奏者がファンダンゴを以てギターの代表曲と誤り

考へて居る内はギターの獨奏樂器としての眞價は決して認められませぬ。僞西班牙樂の一であるセバストポールは永年所謂ギタリストに依つて害毒を流され多くの人は此の曲を奏する人こそギターの達人であると見られて居ります。此の馬鹿氣た誤謬が人々の腦裏に深く刻まれてギターを弾く人に出會ひさへすればスバニツシフアンダンゴを所望致しますが、之れは夫れを眞に喜んで聞きたいと云ふのではなく『人が皆彈いて居るから』との理由からであるらしく思はれます。

斯かる人々は自身が音樂通であるかの如く裝ふ爲にギタリストに向つて西班牙曲を所望致します。斯くすればギタリストは其の曲を弾く機會を與へられた事を喜んで直ちに之を演奏すると思つて居るらしいので御座います。

斯かる連中はオペラ歌手に向つて *Rocked in the Cradle of the Deep* の如き種類の歌を唄つて呉れと云ひ自らでは誠に氣の利いた積で居るのであります。他樂器を手にする音樂家でさへ時々ギタリストに向つて歌曲を所望する事があります。現に

私にも其の覺えが有ります。ロスアンゼルス市に催された盛大な或音樂會で有名なるピアニストが難曲を奏し終り二三の音樂家が續いて己の得意の曲を弾き次に私の番となりギターを取り上げました時其のピアニストは一同に聞へる様な大聲で『何卒スバニツシ・ファンダンゴを彈して下さい』と申しました。

其時は誠に情なくもさまりの悪い思ひをしましたが直ちに勇氣を起して笑顔を以てピアニストに答へました。『若し貴下がピアノで *Granny, Does your Doggie Bite* を奏せらるゝならば私もスバニツシ・ファンダンゴを弾かせう。ギターではスバニツシ・ファンダンゴは丁度ピアノの *Granny*, か又は *Peter Peter, Pumpkin Eater* と同程度の曲です』と。此の度はピアニストが赤面して『常にギターでスバニツシ・ファンダンゴを聞くのでギターの代表的な曲かと思ひました』と詫を申しました。不幸な瞬間が過ぎました。そして席に居た總ての音樂家がすべてを了解して、それより後は決してギタリストに向つて再びスバニツシ・ファンダンゴを所望しない事

を私は信じます。私は此の質問をする者に向つて常に以上の説明をする事を怠りません。セバストポールやスバニツシ・ファンダンゴより他に何も弾けない者でも自らギターリストだと稱して居るのは苦々しい事です。

ギター教授者並びに演奏者に呈する書

ギターの教授者、竝に演奏者は此樂器に就いて何事にまれ新しき仕事を遂行せられ候や。ギターに就いて貴下が數年前に有せられたるより以上に美事にして大なる智識を得られ候や。貴下の技巧と理解とは些少なりとも向上せられ候や。貴下の演奏曲目中に何物か新に加はり候や。以前に全く知る事なかりし曲に就いて練習を開始せられ候や。……貴下は遂に怠惰者の汚名を甘受せらるゝ御覺悟に候や。

教授者は毎日一定の時間をギターの爲に割かれたく候。假令公開の場所に演奏する能はずとするも古の大家の作品は之を學ばれたく候。それと同時に貴下の演奏曲目中に加ふる爲、新しき作曲をも尋ねられたく候。何等新味を加ふる事なく毎年同一曲のみを演奏せらるゝは餘りに消極的の行動に候。勿論世に優れたる作品は不朽の生命を有し候へども同時に其以外に新しく優れたる作品の生れ出つゝある事を記

憶せらるべく候。即ち一日より一日へ新しき作品に就いて知る事を心懸けられなく候。而して新しき編曲に就いても之を注意し、之を研究せられなく候。「進歩」は實に生命に候。音の發生上の進歩、描寫の上の進歩、演奏曲上の進歩、これは實に貴下の生命に候。

作曲、編曲の能力を有せらるゝ方は一週間に、或は一月間に、之が研究に費す時間を自ら決定せらるべく候。平素教授の爲に多忙なる方は暑中休暇中生徒が膝下を離るゝ機會を以て之を行ひ得べく、更に休暇を利用して或は山に、或は海に之を行はるれば最も理想的と存せられ候。身邊を周る新鮮なる空氣と美しき景色は良作品を出す上に大なる刺戟と相成るべく候。吾々は今やギター獨奏の爲の美しき編曲を痛切に要求いたし居候。貴下の演奏曲目を古き作曲、編曲のみを以て形成せらるゝは既に時代後れに候。若し作曲上の天才あらばそを益々練磨せらるべく、之なきに於ては最優れたる演奏家たらん事を努められ度候。貴下の努力に依りて現に「重要

視せられざる樂器」が其地位を再び昔日の高位に引揚げらるゝと同時に貴下の行動は益々有效となり、知識に於て、又技巧に於て貴下の獲得する所日に大なるべく候。斯くして貴下のギターの爲にせられたる忠實にして誠意ある行動は全世界にギターの能力を認めしむる大なる力の一端と相成るべく候。

若し貴下が進み、貴下の周圍のギタリストが進み、遂にすべてのギタリストが進むに於ては眞に價値あるギター曲は到る所に聽かれ「ギターが斯の如き最高の音樂を吾人に與へ得る事を余は初めて知れり」てふ叫は須臾にして到る所に聽かれ申すべく候。重ねて申上候へども總べてのギタリストが進みたる結果はギターはあらゆる人々の心を捕へ、あらゆる人々に其美と能力とを認めしむべくギターは遂にギター自身に歸るべく候。

教授者及彈奏者諸氏、吾人は相共に毎日多少なりとも前進すべく心懸けたく候。而して吾人の最敬愛する樂器の爲に樂しき日の一日も早く來らん事を祈るべく候。

吾人は曾てギターがすべての楽器中、最重要視せられたる時代ありし事とレニアーニ、メルツ、ソル、フエルランテイ、ジュリアーニ其他の大家の功績を記憶いたし候。而して今日の教授者及彈奏家は昔日の隆盛を再びギターの爲に回復すべく努力するの義務ありと信じ申候。

ギターは尊ぶべき楽器に候。そは吾人のよく知る處に候。かゝるが故に吾人は進まざる可らず候。 敬具

ギター練習上の要素

恙う云ふ問題に就いて兎や角申します前、先以て私達は次の事を記憶しなければ成りません。それは「音樂に對して全然同一の內的準備をもつて居る二人の練習生を探した處でそれは決して見出せるものではない」と云ふ事でございます。全くすべての練習生は各人個々別々に新しい問題を提出して居ります。それ故に注意周到な教授者は練習生に最大切な事柄を指示して行く爲に此事實を充分考察する必要があらうと考へるのでございます。

手、腕、指、手首等を柔かにすると云ふ事はギター彈奏上の一大要件でございますが、どうも一般の教授者、練習生からは餘り重く視られて居りません。手にしても、腕にしてもギター彈奏上完全に自分の自由にしやうと云ふ爲にはそれ等の各部分を充分柔軟にする必要のある事は私が申す迄ありません。又手首が正確に屈曲せ

ずに完全な奏手となり、良い左手の持主となる事の不可能なものも明らかかな事でございます。殊に之はバルレ (Barre) や複雑なコードを弾く時に著しく其重要を感じます。私は多くの練習生が此重要な原理を一向念頭に置いて居ないのが不思議に思はれて成らないのでございます。

技術の餘程進歩した人でございまして指の運びを圓滑にする爲に始終幾何かの練習曲を弾いて居る必要がございますし、又長い時間ではなくても一つの曲を續けて弾く事が大切だと考へます。此目的に對してはトリル、スラー、スケール、アルペッジョ、オクターヴ等を繰返し弾く事が最良の練習法でございます。それと同時に指の獨立を確にする練習も亦行はなければなりません。多くの練習生は技術上の訓練の反覆と不變と云ふ事を一般に等閑に附して居る様でございます。つまり今週の練習曲は來週忘れ去るのを常として居ります。然し之は餘程重要な事でございます。まして、どうしても纏つた曲を弾く傍、純粹の練習曲に多少の時間を與へなければ

成りません。たとへ技術の進んだ人でありまして毎日眞の練習曲を弾く必要のある事は申す迄もないと思ひます。

充分な、そして豊麗な音調を出す爲にはタイムを極く遅く弾いて見るのがよいかと思ひます。同時に雑音を出さない範圍で出來得るだけ強く弾く必要がございます。但し此際には指遣ひに充分注意を傾けなければ成りません。それから優れてよい練習曲に對しましてはタイムを早く弾く練習をする爲に時計で時間を計りまして一日一日如何に進歩して居るかと云ふ事を試みるのがよろしうございます。

古のギタリストの作曲はすべてのギター愛好家から珍重せられますが、尙それと同時に現代の良作品に對しても充分注意を拂つて戴きたいと思ひます。之は新しい曲を自分自身へ、又公衆へ紹介するギタリストの義務だらうと考へます。多くのギタリストはいつも同じプログラムを發表いたします。しかもそれは以前に數多くのギタリストが既に世に公にしたものばかりでございます。そして此一事から一般の

人がギターの藝術は全く或る限定された範囲内のものであると考へて居るのは私の最遺憾に思ふ處でございます。

茲に於て私達は例へ小數ではありましても現代の良作曲家、良編曲家を認めなければ成りません。小數は決して皆無ではございません。若し一冊のギターアルバムを購つたとしましたなら其中に必ず一つ二つの良曲を發見するでございます。そして私達がそれに要する時間と勞力とは必ず充分に拂ひ戻されるに違ひありません。

いづれにいたしましても紋切型のプログラムは此樂器を漸次に輕視の中へ投入してまゐります。過去二十年乃至三十年間に於て數多くのプログラムに現れました古いギター獨奏曲だけでは、若しも其單調に變化を與へる新味があるのでなければ聽衆に特別の興味を授ける事は出來ないものであると云ふ事を教授者、練習生共に充分考へて戴きたいのでございます。

ギターリスト十戒

第一戒、余（ギター）以外の樂器に手を觸るべからず、何となれば余は嫉妬深き樂器にして余と相容れざる他の樂器を手にする人々には余の最善を盡さなければなり。

第二戒、「スバニッシ、ファンタンゴ」若しくはそれに類する曲を奏する勿れ。

第三戒、汝の樂器を愛撫せよ、而して常に彈奏せよ。

第四戒、余を音樂的玩具なりと憶斷する勿れ、余を伴奏にのみ適當なる樂器と思惟する勿れ、余を奏でつゝある汝が伴奏と劣等にして喧騒なる音調に於てのみ余を知る時は世界は如何にして余の美と價值とを悟るべきか。

第五戒、大家の作曲を記憶せよ。而してそを練習せよ。

第六戒、余の魅力と美とを知り、そを世界に表示せんが爲日々余の絃に就きて練

習し彈奏せよ。

第七戒、汝の選擇せる樂器を尊敬せよ、ラグタイムを以て汚す勿れ、何となればそは余の魅力に富める絃に適せず、慰樂の歌、子守唄、優しき小唄、殊に人々の心緒をうつ戀歌、生の歌、ロマンスの歌にふさはしければなり。

第八戒、汝の指にピックを持つ勿れ。

第九戒、他のギタリストを貶す勿れ、己れ獨り高く完しと思惟する勿れ、例令少數にせよ茲に他人あるを知れ、而して彼等を信ぜよ、何となれば汝は汝自身の藝術の爲に如何に勉めたるかを知るが故に、汝の友の爲したる處に對しても賞讃を與ふるを至當とすればなり。

第十戒、余の爲に書かれたる大曲を演奏するに當り、瑕なき完き技巧を得ん事を欲せよ。而して豊富なる圓みある音調を出し、古今の作家の思想を同情を以て表示せん事を期せよ。